

# 第1回地域デザイン会議 会議録

## 日時

令和2年8月28日（金）10:00～11:00

## 場所

兵庫県庁2号館2階 参与員室

## 内容

- (1) 新ビジョン策定に係る説明
- (2) 意見交換

## 出席者

別紙のとおり

## 内容

金澤副知事より新ビジョン策定について、説明がなされた後、意見交換が行われた。主なやりとりは以下のとおり。

(学生)

神戸は、山も海もあって、景色が綺麗で、神戸は田舎の雰囲気も都会の雰囲気も、両方を持ち合わせているところが良いところだと思っている。

様々なニーズに合った観光地を、もっと伸ばしたら、若い人も増えるのではないだろうか。若者が、東京や大阪などの大都市に就職してしまうのを、よく耳にするので、もっと若者向けのまちづくりを期待している。

将来は福祉職に就きたいと思っているので、福祉の賃金アップ、子育てしやすいまちづくり、女性に優しい、障害者が働きやすい、性別にとらわれずに自分らしくいられるまちづくり、ひとり親に優しいまちづくりとか。色んな人が、自分らしく、高福祉の町になればいいなと思っている。

福祉の需要は高まっていると思うので、働き手を増やすという意味でも、福祉の良いところを伝えられるような、一般の人にもっと知ってもらうように、何かできればと思う。

(学生)

神戸の好きなところは、買い物がいっぱいできるところだと思っている。

すごくかわいい服や小物を売っているが、私が少し悲しいなと思うのは、個人で営業している小さい店が、少し離れたところにある。とても素敵なお店なのに、誰にも気づいてもらえてない状態にあるのが、少し悲しい。友達と遊ぶと、大体三宮のセンター街を歩くが、その時もチェーン店ばかりなので、どこでも買えるという話になる。ちょっと曲がったところにかわいい店あり、話が盛り上がることが多い。

チェーン店が要らないわけではないが、もう少し、小さい個人営業をしている店にもスポットが当たるような町になれば、神戸でしか買えない状態になるので、人の流れができるのではないかと思う。

(学生)

大学に入学してから、勉強をするときに眠気と戦うためにコーヒー飲みはじめて、そこからコーヒーが好きになった。今では自分で淹れるようになったが、神戸には珈琲屋さん、豆の焙煎をしている店が三宮に沢山あるので、沢山お店を訪れている。

その中で課題だと思うのが、先ほども言われていたように、一つ一つ距離があること。

また、今はインスタ映えしないと流行らないのかというぐらい、飲食店は映えたら OK という感じがして、味よりも見た目重視になっているのが、あまり好きではないなと思う。

三宮には、居酒屋など様々な店が集まりすぎているので、理想としては、岡山にある問屋

町や大阪の中崎町みたいに、店が一つ一つ目立って注目されるのではなく、町として、町全体が作られている感じが、とてもいいなと思っているので、そのような形ができたならイメージをしている。

(学生)

残していきたいと考えることは、私が住む北区の山田の自然である。地名のとおり山と田畑が多く、緑一面の景色が広がっている。小さい頃には、家の網戸にホタルやカブトムシがとまっていた。

あぜ道を通して小学校に通ったり、学校でホタルを育てたり、キジの放鳥をしたりした。このような自然の魅力は、お洒落な街といわれる神戸にとっては、良いギャップであると考ええる。しかし、現在は緑が減少し、ホタルやキジを見ることは少なくなった。そのために解決していく必要があると考えることは、河川の整備である。コンクリートによる河川を整備したときから、極端に川の水が汚くなり、生き物が減った。緑に人間が手を加えることを、少しでも減らすことができるのではないかと考える。実際に、大学の講義で聞いた、小田川の川づくりでは、近自然工法ということを用いて、川や木といった町のシンボルや空間を守っているとのこと。

(学生)

奈良県民なので、今回は県外から見た特色をお話できたらいいかなと思っている。奈良県とは全然違うと思ったところは、農業地帯も沢山あり、三宮みたいな都市もあって、この両方があるということが魅力的である。生産者と消費者の繋がりを持つような姿勢がすごくあると感じていて、そういった部分は残していくべきではないかと思う。

これから過疎地域の人口をどうするのかという話をよく聞くが、友達と将来どこに住むかという話をしても、都会の方が便利だから都会に住みたいという友達が多くて、過疎地域と呼ばれるところでの将来の生活が想像しにくいのかなと思っている。どういった生活ができるのかをもっと想像できるようなことが何かあればいいかなと思う。

(学生)

このプロジェクトに関わらせていただいて成し遂げていきたいこととしては、僕自身が国際関係を勉強していることと、大学の中で模擬国連という活動や、イスラエルという国に3ヶ月間インターンシップで滞在していたという国際的な視点でもって、神戸を考えていければいいかなと思っている。

神戸で残していきたいこととしましては、北野地域は特に色々な宗教があり、神戸全体で見ても色々な国籍の方が住まれていると思っている。なので、異文化が溢れる国際色豊かなまちづくりを、より多様性を認め合いながら暮らしやすい地域、または神戸という町にしていけたらいいのではないかと思う。

伸ばしていきたいところとして、二つある。

一つ目が産学連携で、神戸市や兵庫県として IT であったりスタートアップの誘致も力を

入れているかと思うが、大学と連携したり、大学生が就職に結びつくような形で、より連携をしていけばいいかなと考えている。

もう一つが、大学教育についてである。時代が目まぐるしく変わっていく中で、教育もかなり変化しないといけないと思う。その中で、既存の教育では間に合っていない IT 教育や、大学に追加でカリキュラムを入れるなどして、時代に合った教育を神戸でできるようにしていけば、より IT 人材の方も増えていくのではないかなと思っている。

(学生)

神戸の好きなところは、自然も都会も感じることができるところだと思っている。小さい頃から都市に住んでいる個人的な意見だが、自宅から歩ける範囲で、三宮まで行けて都市も感じられるし、少し歩けば山もある。歩ける範囲で自然や都会を感じられることが、とてもいいところだなと思う。

しかし、最近よく思うのが、三宮のセンター街には空きスペースが多く、店が減ってきているなど感じている。せっかくスペースがあるので、空きスペースを有効活用して、どんどん観光客や人を呼び寄せるような取組ができればいいかなと思っている。

周りでも、神戸に住んでいたけど就職を機に大阪に行くなどと聞くので、神戸に住んでもらうためには、まず空きスペースを有効活用して、リピーターを増やすことによって、ここに住みたいという人を増やしていけばと思う。また、新幹線も空港もあって、来やすい場所だと思うので、もっと人を呼び寄せる取組を考えられたらいいかなと思う。

(学生)

神戸の好きなところは、公共交通機関が便利なところである。阪急電車や JR、阪神電車や神戸市営地下鉄とか、本当に多くの鉄道が走っていて便利なところが、神戸のいいところだと思った。その中で、神戸市営地下鉄のアンダー15 定期券や敬老パスなどの交通機関の割引は、地域の経済をまわしていく上でとても重要だと思うので、これからも必要だと思う。

神戸の伸ばしていきたいところとしては、神戸は大阪や京都と比べて、海外からの知名度があまり高くない。その中で、神戸に来てもらうだけではなく、宿泊までしてもらえるように、外国の観光客を狙った地域づくりやプロモーションが必要だと思う。また、国内旅行者は最近、複数での旅行よりも個人での旅行が好まれ、観光地をみるだけでなく物を作るなどの体験型の観光が好まれるので、個人でもできる体験型の観光を伸ばしていくべきだと思っている。

また、高齢化も進んでいるが、高齢者にはとても高い能力を持った人も多いので、そのような高齢者の方が活躍する場所が増えていけば、高齢化が進んだ社会でも、より活気のある町になっていくのではないかなと思う。

(学生)

神戸の観光地というと、umie がある神戸駅の南側と三宮に分かれると思う。私はどちらでもバイトをしているが、間にある元町はあまり観光的に栄えている感じではないので、離

れているところも一体化して観光地になったらいいなと思っている。

将来的に神戸市で都市開発や緑化事業に関係して就職したいと思っているが、その面から見て良い点は、三宮とかの道路の間に植物を生やすなど、都市を積極的に緑化しているところが神戸で好きな点である。緑化事業も含めて、観光地としていい場所になるように、まちづくりへの意見ができたらと思っている

(企業人)

私が農業をしているのは神戸の西の地域で、緑豊かな地域になる。

神戸で好きなところは、農業目線で言うと、やはり消費者が近いということ。神戸の沢山の人に喜んでもらえるような、おいしい野菜を作っていこうと頑張っている。

高齢化の波が押し寄せており、農業人口がだんだん減っている。農作業は結構重労働になるので、後継者がだんだん減ってきて、作れない田んぼや畑が結構点在している。これから先は高齢化に伴い人口も減っていき、若者の農業離れが結構進んでいる。農業は結構しんどいので、サラリーマンのほうがいいやと都市部へ流出することが多く、後継者が不足しているのが課題となってきている。模索はしているが、なかなか若い後継者が育たない部分が大変である。

(企業人)

三宮とハーバーランドは、神戸駅からもデュオ神戸で地下を通過して南側に行けて、また、三宮は中心街で、人通りが多くなっていくという状況であると思う。

元町商店街の一番街1丁目の大丸近くになると、やはり南京町もあり、ナショナルチェーンが多い通りになるが、元町6丁目となると神戸駅から近く、個人商店が結構増えるエリアになっていて、ちょうど真ん中を境にお店の系統が分かれるという感じになっている。

今後は三宮中心で再開発があり、元町や県庁エリアの再開発計画もあると思うが、もう少し面を広げて、神戸駅や新開地あたりも視野に入れながら再開発をすることで、東から西へという動線ではなく、神戸駅からの三宮への動線ができるのかなと考えている。

商店街でもなかなか課題であるが、商品を見ても結局ネットで買うということに繋がっていくことは加速すると思っている、商品も個人商店の方が見えて面白いという若い方の声もある。観光で回ってもらうためには体験が必要になってくるので、店舗の業態は変えていけないといけないのかなとは思っている。

また、神戸は三宮、元町から観光エリアになっており、有馬へは3、40分あれば行ける距離にある。淡路も30分ぐらいで車で行けてしまうぐらい、とても良い立地にあると思うので、その辺を生かしながら観光のコンテンツを作り、発信していけば、すごく魅力ある都市になるのではないかなと思う。

(企業人)

学生さんたちの話聞いていると、非常に純粋で、なるほどと思ったことがたくさんあった。例えば、人口が減っていて、学生さんたちが都会に行きたいということがあると言われてい

る。神戸に住みたいという人や神戸が好きだという人を増やしていかないといけないが、給料上げたりインフラ強化したりお金のかかることは、他の都市と競合していくというところで難しいだろうと思う。一方で、ブランドやこの土地ならではの個性を磨くことで、非常に魅力的な町にしていける可能性はあるのではないかと思う。

他には、川を戻していくことで、その土地ならではの虫や鳥とか、植生などの一度失われたものを元に戻すことができるかもしれない。

また、まちの全体が作られている感があるというところに魅力を感じるという意見があったかと思うが、言い換えると一体感があるということかと思う。神戸ならではの文化性があると思うので、ここにしかない、日本で一番って言える要素を起点に、一体感を持って作っていくことで、魅力的にできるのではないかと思う。ブランドや個性という意味では、チェーン店よりも個人店が重要だということも、そのような話に繋がってくるのではないか。

今後、強化していくといいと思うものは、主に文化とかや建築の保護から始めるのは、一つありなのではないかと思う。最近ニュースであったのは、古い洋館が何らかの理由で取り壊されることになったが、調査するとグッゲンハイム邸という重要な建物であったことがわかったという。もし可能であれば、例えばそういう古い洋館とか、文化的価値がある可能性のあるものを先回りして調査して、登録文化財に登録してもらうように働きかける。登録文化財という制度は、シンプルに一本しかないと思うが、例えば、ここまで登録してくれたら建物にお金を出しますよとか、スプリンクラーを設置しますとか。重層的にそのような制度を作ってもいいのではないかと思う。

関連して、歴史をもっとまとめていくのがいいのではないかと思う。今は、誰が何年に何をしたという年表的な歴史は多くあるが、建築や食の歴史、ビジュアルの文化などをまとめていくことが必要かなと思う。さらに、今度はその歴史を教えていくことが重要である。どれだけそれを好きという人がいてくれるかっていうこと、どれだけその好きの深さが深いかということが重要になるが、そのためには歴史や伝統文化を知ってくれる人をもっと増やしていかないといけないと思う。神戸ならではの文化や歴史を小さいときから、触れる機会というのを増やしていく必要があるのではないかと思う。

#### (企業人)

神戸で農業をするという時に、都市部、消費者と近いところで農業ができるという大きなメリットを感じた。農業を始めて8年になるが、やはり良い場所である。消費者が近くて、こんなに恵まれた農業をする環境はないのではという場所で農業をしている。

しかし、これは我々の努力不足もあるが、農業自体に注目は集まっても、実際に農業で働くというところまではいっていない。そのあたりは、どんどん頑張っ、農業は面白いというところを発信していきたいと思っている。

課題として、私が住んでいる場所は、住みやすいが、市街化調整区域に当たっているので、住みたくても住めないというのがある。同級生は50人ぐらいたが、多分1人も地元に残っておらず、10分、15分圏内の他の地域に住んでいる。小学校は1学年20人ほどだったが、隣の学校では1学年200人ぐらいいるとか、そんなギャップが生まれている。

農業は、作るだけではなく販売まで含めてできるというのがとても面白いところだと思っているが、販売をしようと思うと、例えば農地をいじって何かを建てることなど、なにかと非常に規制が厳しい。もっと何かできるのではないかと、もったいないというのがある。

本当に良い場所で、週末の観光や子供連れでどこかに行こうという時にはすごくいい場所にあると思っているが、そういったことがに組みやすくなれば、面白い取り組みができると感じている。

(企業人)

残していきたいと思うことは、神戸にある中山間地域である。残していきたいと思いつつ、現況はなかなか厳しいものがあって、30年後には、ひょっとしたら消滅しているのではないかと、思っているくらいピンチである。というのも、若い人がどんどん出ていってしまっていて、人口がどんどん減ってきている。都市部でも人口が減ってきているというのはよく聞かれますが、新聞に限界集落と紹介されるくらい人が減っている。

田舎は、みんなの共同作業で、農業のインフラを整備して、維持していくというようなことで成り立っている地域なので、人が減っていくことは、即そのまま農業ができなくなるとことに繋がりがねない。コロナ禍で、働き方が見直されてきている状況で、リモートワークなど、働く場所を選ばないことで、田舎で生活をしながら、町の仕事ができるという環境が整いつつあるのかなと思っている。そうした流れを後押しするような、田園部のほうに人が住めるような施策を打っていかねばならないと思う。

(企業人)

大学生までは千葉におり、外から来た立場からすると、神戸の魅力とは、やはり自然と都会のバランスが素晴らしいなと思う。この夏も、子供と一緒に旅行にも行きづらいうちで、近所の川で泳いで遊んだ。ちょっと行けば淡路島にも行けて、山もあり、週末になると自然に触れられる環境というのは、子育ての面からみてもとても良いなと思っている。

新神戸駅の下には川が通っているが、その川で泳いでいる人がいて、これはすごいなと思った。のぞみ止まるような大きな駅の下に、遊べるような綺麗な川が流れていると思うと、やはり自然が豊かなことの象徴かなと思ったり、改めていいところだと思った。

一方で、子育て関連で言うと、教育現場には色々な問題もあると思うし、先生の負担も今は非常に大変だと話も聞く。しかし、娘が休校期間中に紙のプリントが配られて、家庭で見てくださいという形になった。在宅で働きながら、子供を見ながらという状況では、なかなかフォローができなかったりした。やはり、いきなりあのような状況になってしまったので、そういった面は仕方ないかなと思う。その一方で、第2波、第3波が来たときに備えて、準備をしているのかと思うところがある。直接先生が授業をすることが前提ではなくても、30年後にも全然違う世界になっていることを考えると、質の良いオンラインのデジタル化した教材や方法を、もっと積極的に取り入れてもいいのではないかなと思う。

実際に私立の学校は、どんどん進めていて、公立との差が広がって行くと思う。そういったところも取り入れていくと、親としては非常に心強いなと思う。

(企業人)

皆さんから面白い話が多かったので、そこを拾いつつお話しする。アフターコロナという時代は、地方分散がある。これは、どのメディアも伝えているし、事実としてこれから起こるのではないかと思う。どこに分散していくかというところで、兵庫県に分散してもらうことが一番重要になってくると思う。

星野リゾートという会社を皆さんご存知だと思う。星野さんが言っていたのが、地元の魅力を地元民が強く感じている地域は地元が強く、観光が強い。私自身も、住んでいるところで愛着もあるが、例えば沖縄や京都の人達と比べると、地元に対する魅力を感じているところは少ないのではないかと思う。また、居住地域に限ると愛着はあるが、兵庫県の北や西の方の魅力を知っているか、そこの観光を何か知っているかという、あまり知らないというのが事実だと思う。そういったときに何をしなければいけないかを考えたとき、魅力は感じるだけではなく、それを他の人に伝えていかなければいけないのかなと思っている。

少し面白いなと思ったのは、兵庫県のプロポーザルで、外国人有名ユーチューバーを使って、観光案内を流してもらう事業をしていたと思うが、そのようなデジタルを使って、地方の魅力を伝えていくことは面白いかなと思う。特にコロナ禍もあり、家にいるので、YouTube、ARやVRを持っていて、その場所には行けないけど、その場所の知ってもらうという。コロナが落ち着いた頃に、実際に足を運んでもらうような施策というのは、少し面白いなと思っている。30年後を見据えたときに、人の分散に視点を持って、デジタルを活用して、伝え方を改善していくということは必要ではないかなと感じている。

(企業人)

業種柄、医療に関わることが多いが、神戸は医療産業都市の構想について阪神淡路大震災から取組がなされており、他の都市と異なる素晴らしい点と感じる。

自分の会社で働いているのは、神戸に住んでいる者がほとんどのため、神戸の魅力について聞いてみると、何となく好き、住んでみて良さが分かったという方が非常に多かった。先ほど、国際色豊かなというご意見があったと思うが、我が社は海外勢が非常に多く、同僚の海外籍社員は、神戸があまりにも好きなので、土地を買っており、神戸にずっと住みたいと言っていた。

また、会議に参加するにあたって、改めて市政の取組等を調べてみたが、神戸に9年いても知らない部分が非常に多かった。住んでみて初めて分かる神戸の良さ、認知度の低い市政の取り組みといった点から、兵庫や神戸のまちづくりに関しての発信の仕方に課題があるのではないかと思っている。

(企業人)

弊会は工業会、機械金属を扱う工業会の中小企業の集まりで、その中で問題視されているのが、後継者不足が目の前の課題となっている。

神戸はすごくいいところだと自分では思うが、すべてが中途半端というか。町があっても



規模が小さく、交通網の観点からしても、空港や新幹線があつて、地下鉄や在来線が多くあるが、やはり中途半端である。海や山、川もあるが、どれをとってもすべてが中途半端かなというところがある。

しかし、その裏を返すと、とても近い距離に全てが凝縮されているので、これを全てパッケージとして周知できればいいと思う。国内外すべて合わせて、一日で回れるぐらいのパッケージが出せるのであれば、神戸の魅力が発信できるのではないかと思う。

(オブザーバー)

今日はキックオフミーティングということで、早速様々なポイントを出していただいた。これをこの先深掘りしていくことが、デザイン会議の仕事になるのではないかと思っている。バラバラな意見が出てくるかと思うと、実はそうではなかった。これが神戸の良いところだと思うが、もう既に良いところがあるという話である。一つは、自然と都会的なところだと思う。ただ、とても良いところだけど、の後に色々あつた。一つは、自然も大変ということ。例えば、都市近郊農業としてはとても良い場所だけれど、それを展開していく上ではとても大変だという事情がある。一方で、都会としてもとても良いところだけど、都会としての魅力をこれから作っていく、維持していくためには、今こういうところが足りないということ。町としての魅力、或いは個性を持った小さな店というものの大事さ、或いは、ブランディングや今持っている神戸のポテンシャル、文化や価値をどう繋げていくのか。これも非常に課題を抱えている。

そういうところを、これから掘り下げて皆さんにさらに検討していただきたいなと思う。それぞれ良いところはあるけれど、これを残していくために、或いはさらにこれから良くしていくために、じゃあ今どういう理由でできないのだろうかという。

30年後を考える仕事だが、未来予想するわけではない。さらに言うと、短期的な政策を提案することを期待されているわけでもないと思う。ただ、30年後に今ある良さを残していく、或いはその中で暮らして、働くために、どうしていったらいいだろう、或いは、どうあつてほしいだろうということ、自由に述べていくことが多分我々の仕事だと思う。

(金澤副知事)

実はいろいろ伺いたいところは沢山あるが、私が正直思っているのは、時代はいつも変わっている。時間はいつも流れている。

学生の皆さんから神戸のいいところや感じることを素直に出していただいたが、それをそのまま残すということだけでも、ものすごく大変なことではないかと思う。今は、学生ということもあり神戸にいますが、就職するときはどこかに出てしまうことも多い。それぞれ自分の志があるので、もちろん兵庫県にいるという方もいるが、要は志によって自分の人生を作っていく。今この時点で、神戸のどういうところがいいところで、何が足りないということ。それがベースではあるが、それをこれから変えていくために、或いは残し続けるために、どういう目標を持っていったらいいのか、全く今のままでいいのか。或いは何か動かしていかないと、今の場所に留まることすらできないのか。

人口はどんどん減っていて、若い人もどんどん減っている。これを、首都圏から神戸に引き戻してくるような何かがあれば、これはそのまま流れっ放しになってしまう。

もちろん社会人の方は、今のままだとうまくいかないという意識がある。例えば、今の業態だったら先細りだ。今の農業をそのままやっていたら、後継者がいなくて駄目だ。こういう意識も強く持っていて、社会の中で仕事をすると当然これからどうなるということを真剣に考えている。そういう気持ちを学生さんにも持って欲しいというか、そういう見方でいったときに、学生さん自身のこれからの人生ってどういう選択をされるかな、ということも聞いてみたいと思っていた。ただ、一人一人何う時間がなかなかないので、そういうことも含めて、これからのビジョンづくりの中で自分なりの意見を出してもらえればと思う。

## ○参画者

	所 属 ・ 役 職
学生有志グループ	神戸学院大学 現代社会学部社会防災学科
	神戸松蔭女子学院大学 教育学部教育学科
	神戸親和女子大学 発達教育学部福祉臨床学科
	神戸大学 農学部食料環境システム学科
	神戸常盤大学 保健科学部看護学科
	甲南女子大学 人間科学部生活環境学科
	兵庫県立大学 経営学部組織経営学科
	流通科学大学 人間社会学部観光学科
	他、神戸市内1大学
若手企業人グループ	有馬山叢 御所別墅
	(一社)神戸市機械金属工業会
	(株)喜市
	(株)神戸デジタルラボ
	(株)東馬場農園
	シスメックス(株)
	西神戸農業経営者協議会
	藤本農園
ネスレ日本(株)	

(五十音順)

○オブザーバー

氏名	所属・役職
星 敦士	甲南大学文学部教授（新神戸地域ビジョン検討委員会委員長）

○県庁

氏名	所属・役職
大町 充弘	兵庫県庁企画県民部ビジョン局ビジョン課ビジョン班長
森川 智弘	兵庫県庁企画県民部ビジョン局ビジョン課ビジョン班職員

○県民センター（事務局）

氏名	所属・役職
城 友美子	神戸県民センター長
今後 元彦	神戸県民センター副センター長兼県民交流室長
柳田 順一	神戸県民センター県民交流室次長
西川 理	神戸県民センター県民交流室総務防災課ビジョン担当班長
田原 由加里	神戸県民センター県民交流室総務防災課ビジョン担当職員